

2017
新! 総合管理学部
START!

マネジメントだけでもない
リーダーシップだけでもない「総合管理力」
そのための新しい学びがここからスタート

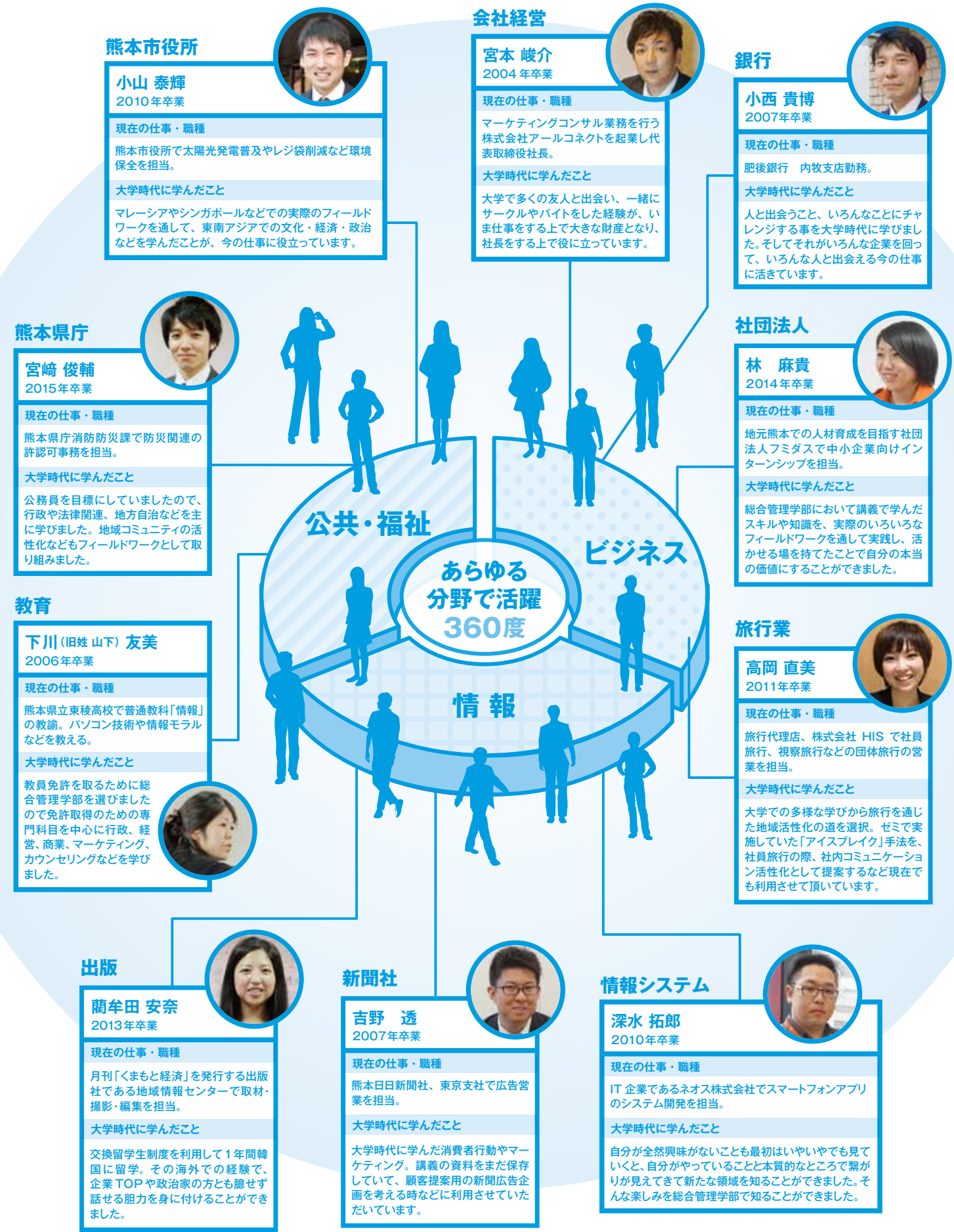
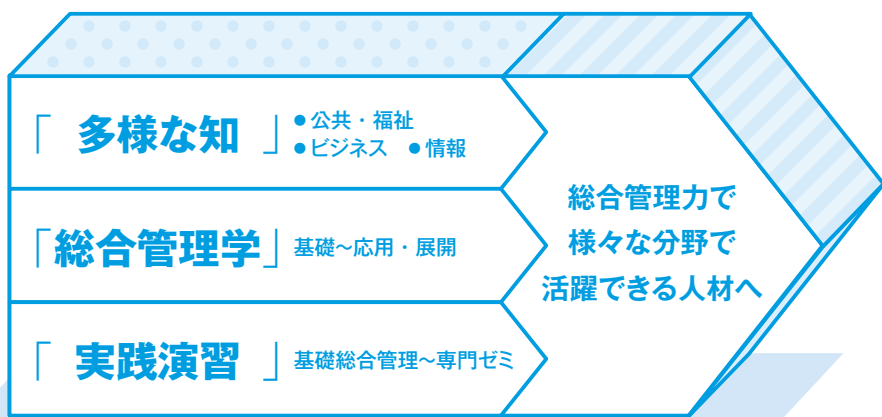
PREFECTURAL
UNIVERSITY
OF KUMAMOTO

「知」と「実践」を通じて 新しい価値を創造する「総合管理力」

これからの時代を 生き抜くために必要な この「総合管理力」を 4年間で徹底習得

総合管理とは、多様な知を総合し、社会的諸課題を創造的に解決することです。複雑化する社会の中で、課題解決力のある人材の育成はますます重要になっています。これまで総合管理学部では、公共・福祉、ビジネス、情報といった様々な分野の諸課題に向き合い、それを解決し地域社会ひいては国際社会に貢献できる人材の育成を行ってきました。さらに時代に合う人材育成を強化すべく、総合管理学部は2017年度より学び方(カリキュラム)を刷新します。土台となる総合管

理学の考え方をじっくりと基礎から学ぶ「基礎総合管理」を1年次から充実させます。また参加人数を10名程度に絞った演習を1年次から4年次にかけて一貫して行い、少人数であることを生かした教育を行っていきます。新たなカリキュラムで、より多様な考え方や専門分野を総合し、創造的に課題を解決できる能力をもつ、360度どんな分野でも活躍できる人材の育成を行います。マネジメントだけでなくリーダーシップだけでもない、これからの新しい時代を生き抜くのに必要な「総合管理力」をここでは学べます。



※ 仕事・職種は2016年3月現在

新！総合管理学部 3つの特徴

価値創造

01

これからの時代に必要不可欠な「総合管理」、1年次から理論と実践の両輪を学ぶ

- 1年次から「基礎総合管理」を設置、その体系を理解し学ぶ
- 課題解決に必要なさまざまな知識習得のための必修・選択科目群

詳しくは▶5ページ

総合管理力

02

1年次から卒業まで一貫して、PBL^{※1}など少人数でのアクティブラーニング^{※2}で実践力強化

- 全学生が1年次から演習形式のアクティブラーニング
- 2年次にはリーダー育成プログラム(選抜)を新規開講

詳しくは▶6ページ

03

多様な知と実践力で公共・福祉、ビジネス、情報など360度さまざまな分野での「総合管理力」を身につけられる

- さまざまな分野、領域で「総合管理力」を応用、展開
- いろいろなことを学び、「総合管理力」で未来へ飛躍

詳しくは▶7ページ

※1) PBLとは
Project-Based Learningの略で、「課題解決型学習」と訳されている。座学にとどまらず、実際にその課題が発生している現場での体験を通じて、よりよいソリューションを考え、実行していく形式の学習方法である。チーム単位で実施されることが多い。

※2) アクティブラーニングとは
「能動的な学習」のことで、授業者が一方向的に学生に知識伝達をする講義スタイルではなく、課題研究やPBL(プロジェクト・ベースド・ラーニング)、ディスカッション、プレゼンテーションなど、学生の能動的な学習を取り込んだ授業の総称。

01

これからの時代に必要不可欠な「総合管理」、1年次から理論と実践の両輪を学ぶ

「総合管理」とは何なのか？ まずはその基礎をしっかりと学び、理解することが大切です。その土台の上に課題解決に必要な幅広い知識を習得し、実践的な演習を繰り返すことで、「総合管理力」を発揮する人材を育成することが可能となると考えます。理論と実践、その両輪を本学では1年次から一貫して学ぶことができます。

1年次から「基礎総合管理」を設置、その体系を理解し学ぶ

公共・福祉、ビジネス、情報などのさまざまな分野で、どのようにして多様な人・もの・考え方を総合し、新しい価値を生み出していくのか、「総合管理」の基本となる体系を1年次からしっかりと学びます。そのために1年から2年にかけて「基礎総合管理学I」「基礎総合管理学II」「基礎総合管理実践」の科目を配置。土台となる基礎の部分をしっかりと学ぶことにより、その後の学習や演習に広く深く取り組むことを可能にします。



課題解決に必要なさまざまな知識習得のための必修・選択科目群

「総合管理」を学び課題解決力を高めていくうえで重要な要素のひとつが、幅広い多様な知識と異なる視点です。現代社会の抱える課題は複雑化し、さまざまな問題がからみ合っており、ひとつの知識だけでなく、多様な知識がなければ解決できない課題が増えてきています。そのために、様々な必修・選択科目を用意しています。公共・福祉、ビジネス、情報分野で多岐にわたる科目を設置し、グローバル、地域という視点からの科目も充実させています。



総合管理学部での学び 実例コラム 1

COLUMN

やつしろTOMATOフェスタに総勢50名の学生が参画(2015年、2016年)

文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」の一環として、総合管理学部の学生が、日本一の冬トマト生産地、熊本・八代をアピールするため、「やつしろ TOMATO フェスタ」に参画。県や八代市、実行委員会と協力して、トマトすごろくの作成やトマトスイーツアイデアコンテストの実施。当日の様子取材した情報誌の編集など、実際のイベントを通じて地元の方々と一緒に企画～実行までのプロセスを体験学習しました。



02

1年次から卒業まで一貫して、 PBLなど少人数での アクティブラーニングで実践力強化

教員からの一方的な講義で「知識」を得ることだけでなく、学生たちが主体的に参加、トライ&エラーを繰り返しながら、仲間と一緒に深く考えながら課題を解決する力を養っていくアクティブラーニング形式の演習で実践力を磨きます。
PBL (Project-Based Learning : プロジェクト型学習) など、少人数での議論やグループワークでの学習に、全学生が1年次から取り組みます。

全学生が1年次から演習形式のアクティブラーニング

1年次前期は少人数での「プレミナール」で、大学での学び方、レポート・論文の書き方、プレゼンテーションの方法などを学びます。ゼミナールとは教授者の指導のもとに、学生が自主的に研究、発表、討論を行う形式の授業です。

1年次後期は「基礎総合管理学演習」で、ロジカルシンキング※1、PDCAサイクル※2、グループワーク、コミュニケーションスキルなどの実践力を身につけるため、基本的なメソッド(方法)やフレーム(型)を学びます。

※1) ロジカルシンキングとは 論理的思考。物事を筋道立てて、論理的に考えること。
※2) PDCAサイクルとは 計画(plan)、実行(do)、評価(check)、改善(act)のプロセスを順に実施する。事業活動における生産管理や販売管理などの管理業務を円滑に進める手法のひとつ。



2年次にはリーダー育成プログラム(選抜)を新規開講

2年次前期には、より高度な実践メソッドを学ぶ「基礎総合管理実践」「基礎総合管理実践演習」を選抜方式で開講。参加者の意見を上手に引き出し合意に向けて論点を整理するファシリテーションや、問いを続けることで参加者自身が自発的に目的を創り出し、「主体的な実行を促す創形成の場」を作るフューチャーセッションなどの技法を身につけます。

また、2年次後期からは全学生が専門ゼミに所属し、さまざまな分野・領域で課題にチャレンジし、4年次では卒業論文に取り組みます。



総合管理学部での学び 実例コラム 2

COLUMN

人吉市鍛冶屋町プロジェクト ウンスカルタの普及継承!

総合管理学部では、人吉球磨地域の活性化を目的としたPBL型教育「KUMAJEKT」を2007年度より行っています。2015年は、人吉球磨5市町村の地域活性化プロジェクトに41名の学生が参加しました。人吉市「鍛冶屋町通りウンスカルタによるまちおこしプロジェクト」では、●ウンスカルタの伝承・普及、●お茶産業を利用した地域づくり、●世界一小さな美術館の活用3点を地域課題として、「高校生ボランティアによるカルタを教える人材の育成」、「粉末にしたお茶とカルタの絵柄を用いたパッケージの開発」、「美術館を日本遺産や観光スポットの情報拠点としての活用」など提案しました。



03

多様な知と実践力で 公共・福祉、ビジネス、情報など 360度さまざまな分野での 「総合管理力」を身につけられる

マネジメントやリーダーシップを学べる大学は他にもたくさんあるでしょう。しかしそれだけでは、ますます複雑化する世の中の課題解決には不十分です。多様な知と実践力を伴った「総合管理力」を有した人材が切実に求められるのです。

さまざまな分野、領域で「総合管理力」を応用、展開

公共・福祉、ビジネス、情報のさまざまな分野、そしてグローバルから地域にいたるあらゆる領域で、多様な知識と異なる視点を習得します。そして、全学生がそれぞれのフィールドを選び専門ゼミに所属し、「総合管理力」を生かして課題に取り組み、新しい価値の創造にチャレンジします。



いろいろなことを学び、「総合管理力」で未来へ飛躍

大学進学時に「まだやりたいことがよくわからない、時間をかけて決めていきたい。」と考える人も少なくないと思います。本学では、将来どんな分野に進んでも必ず役に立つ「総合管理力」を習得できます。

また、総合管理学部での知と実践の体験を通じて共に切磋琢磨した仲間は、さまざまなフィールドで活躍する多様な人的ネットワークとして、将来の大きな財産となることでしょう。



総合管理学部での学び 実例コラム 3

COLUMN

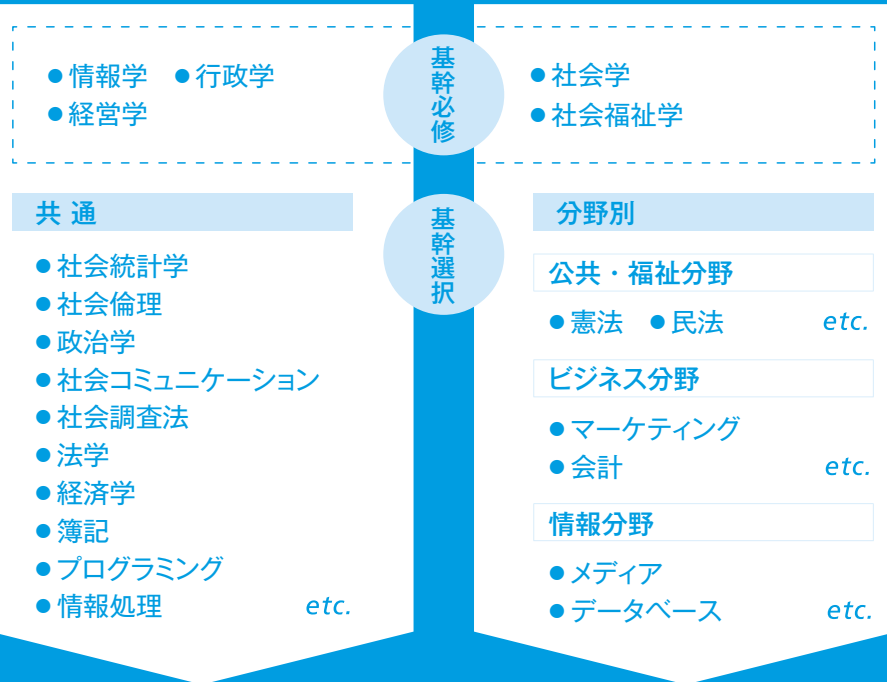
企業の採用パンフレットを作成し提案、 企業の人材課題に挑戦(2015年)

地元企業からの依頼を受け、その企業の学生向け採用パンフレットを、大学生自身が作成し提案するというプロジェクトを実施。学生グループが地元企業の経営者に企業理念や人材に対する想いをヒアリングし、何度もミーティングを重ねて採用ターゲットを絞り込みキーワードやアピールポイントを検討。最後はパンフレット案を作成し企業にプレゼンテーションを行いました。提案した内容のいくつかが実際の採用パンフレットに使われるなど、企業の経営者と一緒に課題解決に取り組む貴重な機会となりました。



「総合管理とは？」を1年次から体系的に学び、多様な知識と異なる視点を習得し、少人数での演習で実践を繰り返しながら「総合管理力」を身につけていきます。

多様な知識
異なる視点
を習得



総合管理
を学ぶ

1年

2年

3年～4年

基礎総合
管理学I

基礎総合
管理学II

基礎総合管理実践

総合管理とは何か？
その基礎を理解する

総合管理の実践に必要な
メソッドを学ぶ

全員が専門ゼミに所属

総合管理の考え方を基に
それぞれのフィールドで、学びを広め、深めていく

「総合管理」
を実践

プレゼминаール

基礎総合
管理学演習

基礎総合管理
実践演習

- 大学での学び方
- レポート論文の書き方
- プレゼンの方法

- ロジカルシンキング
- PDCA サイクル
- グループワーク
- コミュニケーション

- 課題解決実践
- ファシリテーション
- フューチャーセッション
- プレゼンテーション

基本的メソッド・
フレームを学ぶ

課題解決を
実践体験する

専門 演習I

専門演習II-1

専門演習III-1

専門演習II-2

専門演習III-2

卒業論文

様々な知識やメソッドを活用し
自らの問題意識でテーマを設定し、課題解決に向けて取り組む

Question 01 将来何をしたいのか漠然としています。まだ、専門や学部を決めきれません。大学で何を学ばよいでしょか？

Answer. 将来どんな仕事に就きたいのか、はっきりと決めている人はよいのですが、まだ自分の能力や可能性を見極められない中、大学入学前に「就きたい仕事」を決めて学部などを選ぶことは簡単ではありません。総合管理学部では、総合管理能力をベースに360度さまざまな分野の知識や実践力を身につけることができます。大学でいろんなことを学び、様々な経験をして、どんな仕事や業界・領域を選んだとしても、これらの力は必ず役に立ちます。OB・OGの就職先実績からもいろいろな業界へ就職できることがわかっていただけたと思います。

新! 総合管理学部

Q&A

新しい大学生活! 将来のこと、就職のこと、大学生活のこと、学びのこと、いろいろと不安もあると思います。そんな皆さんから毎年寄せられるよくある質問にお答えします!

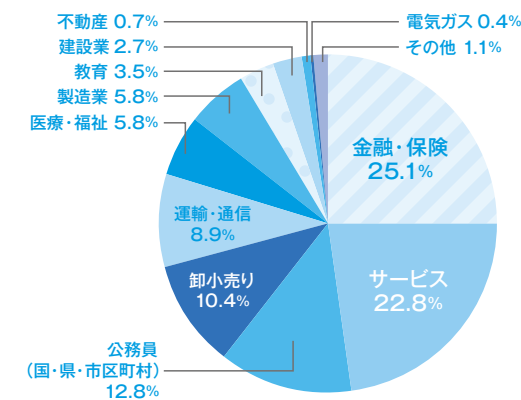
Question 02 総合管理学部の演習とは、どのような内容なのでしょうか？

Answer. 1年次のプレゼミナール、基礎総合管理学演習から専門演習、卒業論文と10名程度の学生によるゼミ形式の授業が一貫して4年まで続きます。最初は学生生活の過ごし方やレポートの書き方、プレゼンのやり方など基本的な生活や勉強の仕方に始まり、徐々にPDCAサイクルやロジカルシンキングなどメソッドを学び、6ページで紹介していますPBLなどアクティブラーニングを主体とした実践力を養う演習となっていきます。

Question 03 卒業生の就職先はどんなところがあるのでしょうか？

Answer. 国家公務員、地方公務員はもとより、民間では銀行、生保、損保、病院、旅行会社、航空会社、テレビ局、不動産、学校、メーカ、サービス、流通と本学の卒業生の就職先はまさに360度、多岐にわたっています。キャリアセンターでは、公務員試験対策講座をはじめ様々なキャリアアップ対策を始め、情報提供や就職アドバイザーによるきめ細やかな相談・指導・支援を行っています。

平成26年度 総合管理学部卒業生業種別就職状況

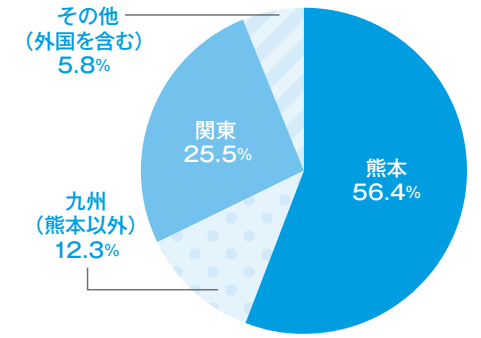


※平成27年5月1日現在

Question 04 地元で就職したいのですが？

Answer. 卒業生の半数以上は地元熊本で就職します。また九州全体を合わせると約7割になります。地元での就職に強い大学と言えるでしょう。在学中もフィールドワークなどで地元企業や地元自治体と共同でプロジェクトを行うことも多く、人脈形成や実際の仕事の内容を知る上でも地元の就職には適した大学です。

平成26年度 総合管理学部卒業生地域別就職状況



※平成27年5月1日現在

Question 05 どんな人が総合管理学部には向いているのでしょうか？

Answer. 総合管理学部では、ニュースや読書等を通しての広い意味での社会科の知識と、現代社会の動きを正しく読み解くことのできる思考力、そして論理的に表現する力(国語、英語など)を高校時代に身に付けている人。また、(1) 行政の役割や機能などを学ぶだけでなく、企業経営の視点を備え、政府・自治体で活躍することを目指す人。(2) 企業組織の運営や管理、意思決定のあり方などを学ぶだけでなく、公共性やリーガル・マインドを備えた企業人として活躍することを目指す人。(3) 情報通信技術 (ICT) および情報管理のあり方などを学び、公共機関や民間企業の情報部門などで活躍することを目指す人。(4) 地域活性化の方策や福祉サービスなどを学ぶだけでなく、地域社会や福祉の分野で実践的に活躍することを目指す人。このような将来の進路を考えている人を求めています。

Question 06 総合管理学部の入試について教えてください。

Answer. 熊本県立大学総合管理学部の入試は、「一般入試」に加え、志望動機や自己PR、卒業後の夢などで自分を推薦する「自己推薦型入試」、熊本県内の学校長による推薦の「特別選抜推薦入試」、社会人・帰国子女・私費外国人留学生向けの「特別選抜」の大きく4つがあります。詳しくは熊本県立大学学部入学試験情報のWEBページ (<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/nyusi/>) をご覧ください。

Question 07 公務員になりたいと思うのですが？

Answer. 本学は総合管理(アドミニストレーション)を学ぶことから、多くの公務員志向の学生が受験します。公務員を志す上で「総合管理」を学ぶことはまさに王道であり、結果、多数の国家公務員、地方公務員をはじめとする行政関係で働くOB・OGを輩出しています。多くの学生が入学以降、努力を積み重ね、公務員となります。また、公務員試験対策講座などその努力をサポートする制度も充実しています。

Question 08 国際力・語学力は身につきますか？

Answer. 熊本はアジアからのインバウンド観光客の玄関口。グローバル人材育成には特に力を入れています。英語科目や外国語科目の開講はもとより、英語学習ソフト導入による自主学習体制や習熟度別英語教育の実施等を含めた外国語教育を展開しており、「国際システム論」「アジア地域論」などのグローバル科目でより深い国際的な知識と実践力を習得することができます。また協定校への交換留学・短期語学研修など、国際力・語学力強化のためのプログラムとともに、留学に関する奨学金・助成金や海外留学対策講座も用意しています。